

（仮称）宮前区「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！

ミーティング3：宮前区らしいソーシャルデザインセンターを考えよう

令和4（2022）年3月13日（日）13：30～16：30

第1部：あいさつ・目的

注釈

* [] 内は動画や画面上での操作に関する補足です。実際に発言している内容ではありません。

* SDC：ソーシャルデザインセンターの略

00:00:00 [音楽] タイトル画面

00:00:06

宮前区役所企画課 山田：

- ・定刻となりましたので、ただいまから、（仮称）宮前区の「希望シナリオ」実現プロジェクト宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！のミーティング3を始めさせていただきます。
- ・私は、本日の進行を務めさせていただきます、宮前区役所企画課の山田と申します。改めて皆様どうぞよろしくお願いします。
- ・本来であれば皆様と直接お会いしまして、お話ししたいところでしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からこのような形とさせていただきました。予め御了承いただければ幸いです。
- ・それではまず初めに、開会に当たりまして、宮前区役所企画課長の小出から御挨拶をさせていただきます。

00:00:53

宮前区役所企画課課長 小出：

- ・みなさん、こんにちは。
- ・本日は、お忙しい中、この区民ミーティングにお集まりいただきまして、ありがとうございます。
- ・宮前区役所企画課長の小出でございます。
- ・前回、皆様と一同に会したのは昨年11月、コロナが一時的に比較的収まっていた時期でした。
- ・それからあっという間にこの日を迎えたような感じがいたします。
- ・今回は残念ながらコロナが再拡大ということで、オンライン開催になりましたが、オンラインでも、複数のグループに分かれて話し合いをして、また全体会に戻ってきて話し合いをする、ということができるということです。今日はそんなことも、体験も楽しみながらご参加いただけたらと思います。

- ・この間、参加者の皆様におかれましては、3つのラウンドテーブルに分かれて、ミーティングにご参加いただいたり、実際にイベントの準備や運営にご参加いただいたり、また、先月にはアンケートにもご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
- ・本日は、今年度の取組の集大成、まとめの回になります。
- ・これまでのラウンドテーブルのお試し実施の取組を振り返りつつ、平成30年度から始まった宮前区の「希望のシナリオ実現プロジェクト」の取組から導き出せる、宮前区らしいしくみってどんな形だろう、宮前区らしいソーシャルデザインセンターって何だろう、ということを、さらに具体的に皆さんと考えていきたいと思っています。
- ・今日は、これまでのご意見をもとに、宮前区らしいしくみ、ソーシャルデザインセンターのイメージの案を、一旦形にしてみました。
- ・これは、決して行政が「これでいきます！」という風に決めた案ではなく、皆さんからご意見をいただくための「たたき台」でございます。
- ・このたたき台をもとに、様々な視点からのご意見をいただきたいと思っております。
- ・区民の皆さんと一緒によいしくみを作り出すことができたらと考えておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

00:03:09

山田：

- ・ありがとうございました。
- ・それでは、この後の進行は、株式会社 石塚計画デザイン事務所さんをお願いしたいと思います。
- ・それでは、千葉さん、お願いいたします。

00:03:21

株式会社石塚計画デザイン事務所 千葉：

- ・みなさん、こんにちは。
- ・ご紹介に預かりました、石塚計画デザイン事務所の千葉と申します。よろしくお願いいたします。
- ・本日の目的と、まず今年度の目的と言うところから改めて振り返りますが、このワークショップ自体は2018年から検討してきたワークショップの続きにあたるものです。
- ・ラウンドテーブルのお試し実施というものを行い、それをもとに、宮前区らしいソーシャルデザインセンターについて考えるということが、今年度の目的となっております。
- ・で、こんな風にやって参りました。
- ・11月3日にキックオフということで、ミーティング1を開催、そして12月から2月の間に3つのラウンドテーブルをお試し実施してきました。
- ・それはラウンドテーブルごとに、いろいろ集まったりとか振り返ったりとかいろいろやってきたということが含まれております。
- ・そして本日、お試し実施の検証まとめということで、まとめの会を開催しております。

- ・では本日の目的です。
- ・ラウンドテーブルのお試し実施をしましたので、まずその成果や振り返りをしていきたいということ。
- ・そしてアンケートを皆さんにお送りしたと思うんですが、それをもとに宮前区のソーシャルデザインセンターの像と案をお送りしていると思います。
- ・それについて説明をさせていただき、しっかり時間をかけて皆さんと意見交換をするという場にしていきたいと思っております。
- ・ですので、今日のプログラムは2部制になっておりまして、最初の前半は実施したお試しラウンドテーブルの振り返りをやる。
- ・そして第二部が、こちらが今日はメインなんですけど、宮前区らしいソーシャルデザインセンターを考えようということで、オンライン形式ではありますが、しっかり意見交換をする時間を設けておりますのでよろしくお願いいたします。

- ・そもそも何でラウンドテーブルなの、という声を聞くこともありましたので、時間をいただいて、そもそもという、ラウンドテーブルお試し実施の経緯みたいなことを1回振り返りたいと思います。
- ・まず、川崎市が平成31年にまとめた「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」という冊子があります。
- ・ここでは、なぜ必要？という話の中で、将来的には確実に超高齢・人口減少社会が来るということで、参加と協働による地域課題の解決が必要ということが掲げられました。
- ・そして進め方というのは結構ユニークだと思うんですけど、プロセスを大事にしていこう、市民と一緒に作り、職員の意識も変えていく。
- ・そして各区が同じじゃなくて、型にとらわれることの無いチャレンジをしていこうということが書かれていました。

- ・そして「希望のシナリオ」って言葉を使っていますが、ここでは市民創発の力で豊かなつながりや居場所があり、弱い立場にある人も含めて幸福で、誰もが認められる社会が続いていくこと。
- ・この10年後を目標に目指していこうということを「希望のシナリオ」と言っていまして、こういう3層制の取組というのを示しておりました。
- ・1番広いところは川崎市全体、そして緑色になっている真ん中は区域、7区の区域ですね。
- ・そして、それぞれの小学校区レベルっていうものを、こう3層で進めていく。
- ・今回のワークショップはこの区域という所の中で、区域のソーシャルデザインセンターを創出していくということをみんなで考えるワークショップという位置づけになっております。

- ・区域のソーシャルデザインセンターの創出というところでは、こんな風書かれているのですが、小さいので、機能というところ大きくしていますけど、例えば、機能として人や団体、企業とかをつなぐコーディネート機能とか、プロデュース機能というのが例えばあるだろう。
- ・あと支援というニーズとメニューを効果的にマッチングしていくとか、地域課題の解決を目指した社会実験をやっていこうとか、あと、例えば、人材育成をするとか、情報発信、交流をしていく、そういったことがソーシャルデザインセンターの機能になるのではないかと、この冊子では書かれていました。

- ・それを受けて、宮前区では 2018 年から宮前区らしいしくみ「ソーシャルデザインセンター」ってどんなものなんだろうねということを考えるワークショップを、この図のように、ぎゅっとした図ですけど、開催してきました。
- ・今日参加されている皆さんの中でも、このワークショップに参加されている方も結構いらっしゃるんじゃないかと思うのですが、まず宮前区ってすごい市民活動がたくさんあるのではないかという話で相関図というのを作ってみました。
- ・実にたくさんの団体の相関図化をして、マップに落としてみるみたいなことをやって、それだけではちょっとリアリティーというか、どんなことになっているかが分からないので、みんなでまち歩きをすごくしっかり行って、そして資源としてこんなことが宮前区にあるんだということをみんなで把握しました。
- ・その上で市民創発を促すアクションというのを考えたんですね。
- ・それを実行しようって言うところで、コロナが来てしまってそこは実行できなかったんですが、今回のワークショップにつながったということです。
- ・今回のワークショップをやるにあたって宮前区らしいしくみということの仮説を最初に私の方でお示ししたと思うんですけど、それを振り返ると、区内の豊かな活動を活かし、主体的に活動する既存の活動や人をつないで、さらに豊かにしていく「しくみ」や「しかけ」なのではないか。
- ・それを、今回はラウンドテーブルという言い方でこれを試してみませんかというワークショップだったんですね。
- ・多様な主体っていうのがある、協働・連携するプラットフォームというのを、例えば、区役所とかも 1 つのパイと捉えて、いろいろな立場の人が集まって、この 6 つのアイデアの柱というのも、2018 年からみんなで考えてきた、ソーシャルデザインセンターってこんなものがあたらいいんじゃないかという柱なんですけど、これをラウンドテーブルという場で考えよう。
- ・で、地域の課題や実現したいことというのがここに投げ込まれたら、活動が後押しできる支援が生まれてくる。
- ・そんなことが実験できないかっていう風に考えたんですね。
- ・そこで、この投げ込みをしてもらう人、この左側の地域の課題や実現したいことしたい事というのを投げ込んでもらう方を「テーマオーナー」という風にここでは名付けてですね、この 3 つのお試しプロジェクトをテーマオーナーの方に御提案いただいて、そしてやってみようということになったというのがこれまでの経緯です。
- ・こういう前提でスタートしたんだということを皆で共有してからスタートかなと思います。